

2022年度 総括案

代表代理 事務局長 沼田 栗実

2022年度も引き続き、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症と上手に付き合いながらの活動になりました。前年度に引き続き、コロナ禍前と同じように活動することは難しい一年でしたが、感染予防対策を行いながら、出来ることを考え、実行してきたと思います。事業ごとに振り返り、総括していきたいと思います。

2022年度は、以下の3つの短期目標を掲げ事業を行ってきました。

- ① HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつなげる体制を構築していく。
- ② スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、参加を促していくことで、「HIV/エイズに関する知識」だけでなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
- ③ 活動の輪を広げるために、会員数の拡大に努める。

電話相談事業は、毎週火曜日の19時～22時までに行っている当会でも長い歴史のある事業です。2022年度は新しい相談員が育ち、電話相談員デビューしました。相談員が3名になり、より広い視野で相談を受ける環境が整ったと思います。COVID-19感染症の影響もあり、電話相談の件数は以前ほど多くはなく、相談員のモチベーションの維持が難しい状況の中で、新しい相談員が育っていくことは、会として、とても嬉しいことです。新しい相談員が増えたこともあり、数年振りに電話相談員だけでなく、電話相談事業の担当スタッフ全員で勉強会も実施できたね。相談員自身が理解を深めたいことや知識を得たいという内容で実施し、相談員それぞれが研鑽を積むことができました。そんな中ですが、2023年度は立派に育ってくれた相談員が自身のキャリアアップのため活動を離れます。相談員が2名になりますが、これからも言葉選びを慎重に、相談者に寄り添えるようにしていきましょう。

電話相談事業は、さぼーとほっと基金の助成を得て、2022年度も事業を行うことができました。電話相談の件数は、以前ほど多くありませんが、それでも電話が鳴らないという日はありません。より多くの必要としている人に情報が届くよう、新しい電話相談の広報カードを電話相談事業の担当者全員で検討し作成しました。保健所や医療機関などの関係機関だけでなく、今後、イベントなどでも配布することで、より多くの必要としている人の手に渡ることを願っています。

また、当会の事業ではありませんが、札幌市の「LGBTに関する電話相談(以下LGBT相談)」に、引き続き相談員として関わっているスタッフがいます。LGBT相談の内容は幅広く、当会の電話相談とは異なる難しさや大変さがある他、相談員も様々な所属から集まっているため、他団体の相談員と上手にコミュニケーションを取りながら、LGBT相談の枠組みを大切に、変わら

ず信頼される対応をしてくれている相談員に感謝いたします。

講演事業は、コロナ禍で外部講師などを招くことに躊躇される学校や施設が多い現状は変わりませんが、その中で2つの中学校にエイズ出前授業を行いました。

1つは、斜里町立知床ウトロ学校からの依頼です。知床ウトロ学校では、3年に一度、7年生～9年生(中学生)を対象にエイズに関する講話を保健所に依頼し実施しているのですが、このコロナ禍で保健所が講話をすることが難しく、当会が講演活動を実施していると保健所から担当の先生に紹介してくださったのがご縁で、2022年の初めから講演についての問い合わせがありました。本来であれば、学校にお伺いして、直接、生徒の皆さんとコミュニケーションを取りながらお話ししていきたいところではありますが、社会情勢や物理的な距離、スタッフの都合も鑑み、初めてオンラインでの出前授業を行いました。当日の担当スタッフ間では事前の打ち合わせを何度も重ね、学校側とも調整だけではなく事前回線テストも行い、当日何事もなく実施できたことは当会として、新しい一歩だと思えます。

知床ウトロ学校からの講演依頼では、生徒を対象とした「エイズ予防&性的マイノリティ」の授業だけでなく、教職員向けに「性教育と性的マイノリティ」についての授業も行いました。初のオンラインでの講演活動でしたが、事前にコンドームの正しい付け方用のセットを学校に送付し、画面越しではありますが、先生方に対してコンドームの正しい付け方レクチャーを行うこともできましたね。当会の養護教諭の経験を持つ講演スタッフから、その経験を生かした内容で伝えられ、教頭先生からも「今まで他の先生方と性について話す機会がなかった」と、先生方にとっても、当会にとっても、いい経験になったと思えます。オンラインを閉じた後にも、生徒に対するセクシュアリティへの配慮についての相談の電話もあり、スタッフの経験にもつながったと思えます。初の試みもある中で、当日担当してくれた講演スタッフに感謝いたします。

もう1つは、江別市立江別第二中学校からの依頼です。江別第二中学校では毎年中学3年生の保健体育の授業の中で「エイズの予防、性感染症の予防」という授業を行っており、今回江別保健所を通して、当会に依頼がありました。江別第二中学校でのエイズ出前授業では、講演部門の座学研修を終えたスタッフがアシスタントとして講演プログラムの一部を担当することができましたね。知床ウトロ学校の講演から時間がない中でもあり、スタッフ間の打ち合わせや練習の機会を十分に持つことができませんでした。スタッフの経験になったと思えます。時間がない中でも、事前の打ち合わせや練習の機会を持つという課題は残りますが、次につなげて欲しいと思えます。

短期目標①にも関わることですが、どちらの学校も管轄保健所からの紹介や依頼によりつながっています。これは2021年度に道内の保健所に電話掛けしたことや「想いをつなぐ-相談&サポート団体リスト-」を送付したことでのつながりを持てたのではないかと考えております。コロナ禍で保健所業務が逼迫し、通常行っていた教育活動が保健所でも難しい状況で、当会の講演事業につながったことは、学校側、保健所側、そして当会にとっても利益のあることだと思います。小さなつながりかもしれませんが、ひとつひとつのつながりを大切にして、これからも活動していきましょう。

また“HIV陽性者のリアルを伝える”の講演は中期目標①につながっています。医療福祉サー

ビス事業者からの講演依頼はありませんでしたが、担当スタッフのつながりから道外のコミュニティセンターで陽性者の生の声を伝えています。HIV 陽性者の長期療養の時代に、医療福祉サービス事業者に生の声を伝えていくことも大切ですが、身近なところから伝えていくことが、当会が目指す「HIV 陽性者・AIDS 患者との共生を目指し、差別・偏見のない社会を実現」の第一歩と考えます。これからも大切に活動していきましょう。

アウトリーチ事業は、当会の事業の中で、一番多くのスタッフが関われる事業ですが、引き続き COVID-19 感染症の影響もあり、参加できるイベントが少なかったのが現状です。その中でも、さっぽろレインボープライドでは 2 年振りにブース出展することができましたね。ブースでは、予防について考えるきっかけづくりや HIV/AIDS について知るきっかけづくりの提供ができるよう、色々な種類のコンドームや資料等の配布、参加者へのアンケートの協力を促しました。ブースに立ち寄った人たちにとって、HIV/AIDS や性感染症について考える時間になったと思います。

さっぽろレインボープライドでのブース出展では、数年振りに学生団体 SCORA 北海道の学生さんともつながることができ、当日は一緒に活動することができました。このつながりもあり、年度末には SCORA 北海道の学生さんが、当会の活動に興味を持ってくださり、ヘルプスタッフに登録してくれています。短期目標①の達成が短期目標③の達成につながっていることを実感します。

他にも、数年振りに世界エイズデー札幌実行委員会と協力することが出来ました。「レッドリボンスタディ」の運営に関わる他、世界エイズデーに合わせラジオで陽性者スタッフが生の声を発信しています。

ブース出展以外にも、ラジオでの情報発信やさっぽろレインボープライドの公式 HP へのバナー広告掲載による情報発信など、様々なツールを利用しながら、HIV/エイズについての情報を発信できたと思います。

アウトリーチ事業は、スタッフの「やりたい!」「発信したい!」を実現できる事業です。これからもより多くのスタッフのモチベーションをくみ取り、会のみんなで情報発信していきましょう。

ななかまどPJは、北海道に暮らす HIV 陽性者が「今よりもっと元気になるために必要としていること」を共に考え、形にしていくことを目的に、面談ルーム「くれば一緒に」と陽性者交流会を実施しています。くれば一緒にの問い合わせ・利用はありませんでしたが、陽性者交流会は、2016 年度に一度企画して実現できなかった地方開催を実現することができました。地方開催については、参加申込の定員割れもあり函館のみ開催できましたが、これは、当会にとって大きなことだと考えています。COVID-19 感染症の影響や参加申込の定員割れなどで中止せざるを得ないこともありましたが、スタッフが適宜、開催と中止の判断を検討し適切に動いてくれたことに感謝いたします。

陽性者交流会は、毎回楽しみにしている参加者だけではなく、新規の参加者も一定数おります。交流会の中では、自分が陽性であることを気にせずに話せる場であり、ニーズのある事業です。

2023 年度は、スタッフがキャリアアップのため活動を離れます。そのため、陽性者交流会の当日の運営に携われるスタッフが 1 名体制になりますが、内輪の会にならないよう、陽性者スタッ

フ以外のななかまどPJスタッフも含め、安定した交流会が実施できるよう意識しながら、これからも運営していきましょう。

全体を通して、2022年度もCOVID-19の流行が及ぼした事業および活動への影響は大きかったと思います。それを前向きに捉え短期目標②を掲げましたが、各事業では勉強会などを実施することはできたものの、会員・ヘルプスタッフの皆さんに対して会の中での勉強会の実施はできませんでした。そのような状況でしたが、スタッフそれぞれが外部の研修会や勉強会に積極的に参加して自己研鑽を積み、活動の中で色々なことを吸収していたと思います。

札幌市主催のゲイ・バイセクシュアル男性向けエイズ検査の広報や当日の相談員派遣、厚生労働省の研究班の事業への協力など、継続できている事業もあります。ここには記載できなかった事業もたくさんありますが、2022年度のスタッフの活動に大変感謝いたします。

2023年度は、COVID-19感染症も落ち着き、少しずつ以前のように社会活動も戻っていくことが考えられます。当会も活動しているスタッフが不安にならない程度に、少しずつ活動を戻していきたいと考えています。

これまでも、それぞれのスタッフが関われる形で、活動を支えてくださっています。年齢も職業もセクシュアリティも多様なスタッフが関わってくれていることで、一つの事柄も、多角的に考えることが出来る、これは、当会の財産だと思います。事務局メンバーだけの活動にならないよう、それぞれの経験や感受性を共有するような機会を持ち、切磋琢磨していきたいと思ます。

2022年度も助成金だけではなく、資金面で継続的に応援して下さる賛助会員の皆様、たくさんの寄附をいただいた個人の皆様、啓発資材のサンプルを提供いただいた企業様等、たくさんの方々に支えられ、事業を全うすることができました。本当にありがとうございました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。

2023年度も事務局メンバーだけでは、会の活動はできません。会のみんなで事業を進めていきたいと思っています。スタッフそれぞれが「ワクワクすること」「心が動くこと」を考えながら、自分ができることから始め、みんなで活動の輪を少しずつ広げて行きましょう。